

立命館 災害復興支援室

瓦版

かわらばん

【第5号】2012年3月12日発行

【立命館・遠野拠点後方支援プロジェクト】

レポート 後方支援スタッフ派遣

第4便・第5便：宮古市で活動

2月初旬の第3便に続き、立命館災害復興支援室が企画・運行する「後方支援スタッフ」（ボランティアバス）が東北の被災地に向かい活動を実施しました。

第4便は2/19（日）-24（金）の日程で（学生12名、職員2名）、第5便は3/1（木）-6（火）（学生13名、職員2名）で実施し、両便とも岩手県宮古市でのボランティア活動を行いました。

第4便 活動レポート 〈仮設住宅での支援物資の配給・談話室を活用した傾聴活動の展開〉

第4便メンバーは現地2日間の滞在中、グループに分かれ、棚花王による支援物資の仕分けと配布のお手伝いや、仮設住宅集会所での傾聴活動に参加しました。支援物資配布や集会所の訪問では、住民の方と直接お話をする機会を活かして、困りごとを抱えていないか等を把握し、必要な福祉の支援につなげるという目的もありました。

支援物資配布のお手伝いの様子



宮古市は立地上、震災直後から都市部から来る大学生ボランティアは少なく、宮古市出身の方々を中心に支援活動が展開されてきました。速く関西から来た立命館大学の学生のボランティアはまた珍しいさがあるようで、支援物資を配布する際、訪問先によっては、学生を囲んでの楽しいおしゃべりの時間が始まり、中には囲碁好きの住民の方に誘われて家に上げていただき、時間

いっぱいまで囲碁の勝負をする学生もいたりしたとか。
またある仮設住宅では、普段あまり出歩かない住民の方が顔を出してくださる等、ささやかですが学生らしい支援に取り組むことができました。

仮設住宅の談話室にきた住民の方に学生たちはお茶をお出しし、楽しいひと時を過ごしていただくお手伝いをします。



宮古市での活動中の宿泊では、市内でボランティア用に開放されている空き仮設住宅を2戸お借りし、相部屋で寝起きしました。食事についても、毎日の朝食と夕食を地元店舗や市場に材料を求め、協力して自炊を行いました。

【第4便に参加した学生のコメント】
Q:参加する前と後で、自分のなかで変化したこととは？

仮設住宅での暮らしのお話は、これまでに聞いていた内容と異なりショックでした。実際に自分の目で見て歩き、聞いたからこそ、これまでよりさらに、私たちは何が出来るのかより具体的に考えるようになりました。今もニュースで被災地の様子が報道されていますが、その時に今回の活動でお会いした方々の顔が浮かぶようになりました。
(国際関係学部2回生)

第5便 活動レポート 〈宮古市田老地区に訪問し、語り部による現地説明会に参加〉

第5便メンバーも、第4便同様宮古市の仮設住宅の集会所に訪問する活動に取り組みましたが、現地訪問初日は、宮古市北部の田老に足を伸ばし、現地住民の方々で構成されるNPO「立ち上がるぞ宮古市田老」の方と、たろう観光ホテルの社長さん

から津波被害についてご説明いただく機会に恵まれました。

たろう観光ホテルの様子



田老地区は、津波以前は「スーパー堤防」があったことで世界的にも有名な町です。語り部さんによれば、田老地区は昔から津波が多く、防災の意識が低くなかった反面、スーパー堤防の存在が「まさか堤防は越えないだろう」という油断につながり、避難開始が遅れ、命を落とす人もいたとのことでした。

たろう観光ホテルの社長さんは、地震発生のたびに津波をビデオに収めており、3月11日もいつものように最上階の客室から海を撮影しておられました。6階建のホテルは3階部分までが津波で破壊されており、無事だった上階で当時の映像を見せていただきました。

映像では、津波襲来前に湾の水位が下がり、次に高い白波を立てながら津波が迫る様子、津波があったという間に堤防を越えて町が押し流されていく様子が収められていました。社長さんは事業再会の目処がまだ立たず、田老の観光業復活を願い、地域のNPOの方と連携し今回のような視察受け入れに取り組みられています。

「また田老に観光に来て、津波を勉強して教訓にほしい。」「日本中の支援をもらって今は生活できているから、一生かけて恩返しをしたい。語り部活動はその第一歩。」など、語り部さんの言葉を聞いて、学生としてできる復興支援を改めて深く考えた時間となりました。

応用人間科学研究科

2/22-24 仙台市立寺岡小学校での取り組み

応用人間科学研究科が震災復興支援プロジェクトとして進める取り組みのひとつ、「特別支援教育の再生と創造に向けて」の活動が11/1-2の第1回に続き実施されました。

第2回は2/22-24の日程で、応用人間科学研究科谷晋二教授と院生の大西康太さんが仙台私立寺岡小学校を訪問し、特別支援教育にかかわる教員とのミーティングや授業参観と教員とのコンサルテーション、障害のある子どもを持つ家庭への訪問とコンサルテーションなどの活動が行われました。障がい児をもつ保護者やクラス担任、医師等から直接聞き取りを行うことで、状況を確認した上で指導助言ができたこと報告いただいています。また、クラスでの指導は第1回訪問の際に作成された個別の教育支援計画に基づいて実践されており、今回の訪問で個別の教育支援計画が有効に機能していることが確認されました。

詳細は応用人間科学研究科のHPでも紹介されています。ご覧ください。

放射線測定始めました。

東日本大震災による東京電力福島原発事故に関わり、放射線の影響については立命館の父母や校友からも心配の声が寄せられていました。立命館として学生・父母・校友、地域住民に対し放射線測定を実施することで安心を与えるとともに、放射線の正しい理解や現状の正確な発信等を通じて、教育・社会への貢献を果たしていくべきであると考え、立命館でも放射線計測を実施することにしました。

これからの主な取り組み

3/13 立命館中学・高等学校 震災復興支援プロジェクト企画 「Warm Heart~3.11から1年 今、私たちにできること」～講演会と応援メッセージを届ける集会～

生徒会と学校が協力し開催。立花貴氏講演会や生徒および保護者からの活動報告発表、そしてそれらを通して「今、私たちにできること」のメッセージづくりを行う。13:00～立命館中高記念ホール。

3/22 立命館大学システム研究所公開フォーラム 「震災からの復興とまちづくり - 陸前高田の現状を踏まえ、何が出来るか、必要か - 」

被災地域の復興と再生、とりわけ暮らしの復興のために大学、市民として何が出来るかについて考える機会になるよう開催。現地報告、講演、パネルディスカッションの他、東北物産展示販売会も実施。13:30～BKCRoom記念館5階大会議室

<それぞれの取り組みの詳細については、今後HPや瓦版でお伝えします。>

お知らせ

東日本大震災から1年目の3月11日をむかえ、大学HP、災害復興支援室HPでは総長からのメッセージを公開しています。

立命館では東日本大震災発生後、被災地域の大学からの支援要請など、緊急的・総合的に判断・対応が必要なものや、学生のボランティア活動、支援に関わる教員の教育・研究活動へのサポートなど、学内外の情報を整理し具体化していく必要があると判断し、2011年4月21日に、「立命館災害復興支援室」を設置しています

まずはその第一弾として、3/1より朱雀キャンパス南側守衛室に測定器を設置し、計測を始めています。この測定は、慶應義塾大学の地球環境スキャンニングプロジェクトとの協力によるもので、Yahoo!JAPANが慶應義塾大学の地球環境スキャンニングプロジェクトとSAFECASTによって観測された放射線データをYahoo!JAPANのトップページに掲載し、全国の放射線量をリアルタイム（5分ごと）に更新。各地点で計測した速報値、24時間平均値を数値とグラフでわかりやすく情報発信するという全国的計測ネットワークを利用しています。現在全国137点、うち近畿3地点。立命館朱雀キャンパスでの計測も近畿4地点目の計測地として今後掲載されます。

<http://radiation.yahoo.co.jp/>



また各附属校での実施も検討中で、立命館高校では、上記取組みと関連して、SSHにおける生徒の研究テーマの一環として放射線に関する教育を実施していく予定。

【地球環境スキャンニングプロジェクトとは?】
慶應義塾大学 環境情報学部の村井純教授をリーダーとするプロジェクト。個人ボランティアや民間企業が協力し放射線量を計測、インターネットを通じデータを公開しているため、広い範囲で多くのデータを収集することが可能。また、計測された値についても、大学の研究者らがその正確性について検証を行っている。

【SAFECASTとは?】
人々が自ら力を持ってよう、データを提供する活動を世界規模で行うプロジェクト。主にセンサー（ガイガーカウンター）ネットワークを構築し、人々が活動に寄与し収集したデータを自

由に使用できるようにすることで、この目的を達成しようとするもの。International Medcom社や慶應義塾大学などの協力団体と協働し、警戒区域周辺を含む日本全国に配置された、固定センサーおよび移動センサーから成る放射線センサーネットワークを構築している。

取り組みマップ

ポスターできました

2011年3月11日に発生した東日本大震災を受けて立命館では災害復興支援室を設置し、これまで様々な取り組みを行ってまいりましたが、その取り組みを紹介したマップポスターがこのたび出来上がりました!!もうどこかの掲示板でご覧いただけましたでしょうか?東日本大震災に関わる研究推進プログラムの取り組み、東日本大震災に関わる教職員企画「私たちの提案」の取り組み、また学部・研究科や学生・ボランティア、校友に関する取り組み、そして災害復興支援室の訪問先も含め、様々な立命館での復興支援活動が日本の各地で進んでいることがよくわかります。この取り組みマップポスター、ぜひ学内で探してみてください。そしてまた、これらの活動がさらに広がっていくよう、一緒に活動してみませんか?皆様からの活動情報もお待ちしています。



編集後記

少し暖かくなりましたね。でもまだまだ東北は雪模様。この間後方支援スタッフを派遣するバスを運行していますが、寒さの影響で現地はガスの火力が弱く、シャワーをしても現地で冷水になったり、きちんと水抜きをしておかないと配水管の凍結をしたりするという報告も届いています。そんな中、寒さに関わながらも一生涯懸命な学生達。引き続き応援宜しくお願い致します。

立命館大学災害復興支援室瓦版【第5号】
発行人・編集 立命館災害復興支援室
075-813-8130（総合企画課内）
メール 311fukko@st.ritsumei.ac.jp